

令和6年度第3回三次市地域部活動検討委員会【会議要旨】

開催日時 令和6年12月6日（金） 14:00開会 16:05閉会

開催場所 三次市役所6階会議室

出席委員 東川委員長，藤田副委員長，細美委員，片上委員，長尾委員，今井委員，山崎委員，井上委員

事務局 三次市教育委員会教育部社会教育課，学校教育課，地域共創部共生社会推進課
迫田教育長，宮脇教育部長，矢野地域共創部長，田村課長，山西課長
藤本課長，山岡係長，信田係長，山本指導主事，平田指導主事，梅崎主任主事

- 次 第
- 1 開会
 - 2 報告・協議
 - 3 今後の取組について
 - 4 その他
 - 5 閉会

配付資料

- ①資料1「三次市における部活動改革について」
- ②資料2「これまでの取組について」
- ③資料3「部活動地域移行に係る視察報告」
- ④資料4 令和5年3月22日「三次市地域部活動移行に関する意見提言」
- ⑤資料5 三次市地域部活動検討委員会設置要綱

1 開会・挨拶

教育長： これまでの取組に感謝
三次市役所内の部署を超えて共創して取り組んでいく

2 報告・協議

（1）資料1「三次市における部活動改革について」（事務局説明）

・第2回検討委員会での確認事項

- ①休日の部活動完全移行を令和9年4月から実施する
- ②総論協議は検討委員会全体会で行い，

（委員）「事務局を設置する」とは，どのような組織なのか。

サッカーでは，一番困るのは事務である。

（事務局）検討段階である。

（委員）事務局設置の目的について，個々の活動母体の支援なのか，三次市全体の地域移行を総括するものかという点，後者になると考える。

（委員長）県内他市でも，地域移行開始を周知されたところ，様々な意見が出ていると報道されている。

早めに市民に方向性を知らせる必要がある。

コーディネーターが関係機関と連携する中で、三次市内でも、情報が不足しているとの声があると聞いている。市の方向性を公表することが必要である。

(委員) 方向性の周知はするべきだと思うが、様々な意見は出ると思う。

令和9年度から、移行可能かどうか、保護者からも意見が出ると思う。

(委員) クラブの役員に説明すると、賛否両論がある。地域の方と一緒に考えましょうと伝えている。三和中学校とは連携を進めている。

(委員長) 本来なら、各部に分かれて具体の協議をしてもらえば良いが、本日は、提言を検討する会としてよいか。→良い

(2) 資料2 (前半)「これまでの取組」(事務局説明)

- ・ 前回報告以降、新たな取組も始まっている。

きりりの吹奏楽、スポ少のサッカー、連盟の剣道、八次自治連、文化連盟三和支部

- ・ 視察報告

山口県周南市では、令和8年度から平日と休日を一体とした移行を決定されている。

広く周知活動を行い、市民の理解に繋げている。

教育委員会、地域振興部が連携を図って運営している。

(委員長) 質問があるか

(委員) その他の中学校区は進んでいるか。人数が少ないし、地域の役まわりが高齢者にあたり、課題が大きい。

(事務局) 先行実施の地域が中心である。きりり、自然発生的に始めているところもある。

(委員) 資料1について、地域、自治連関係、スポーツ系、文化系以外の新たな取組も紹介されたが、初期の段階で自治連をどの程度巻き込むのか。付いて来れない自治連もあるのでは。地域行事を優先して、部活動地域移行の取組が後回しになる可能性もある。

(事務局) 自治連も選択肢の一つである。地域も子どもとどう繋がるかは悩んでおられる。できるところからやっていけば良いと考える。

資料2 (後半)「これまでの取組」(事務局説明)

- ・ これまでの取組で出てきた課題

- ① 目的・開始期等について質問が多いため、早期の周知が必要と考える

- ② 「休日の移行」では対応しきれない実態がある。

平日の活動との関連の有無や内容を鑑みて、一律に対応することが難しい。

甲奴の地域野球では、平日と休日の指導者が異なり、難しさも出ている。

- ③ 庁内関係部局、市内関係団体等との連携推進が必要である。

(委員長) まずは、市民に周知して、意見をいただく段階に入ってくると感じる。

日にちを決めて、公表することについてはどうか。意見をお願いします。

(委員) この委員会として、教育長に提言するが、基本理念となるので、細かいことなく大まかな内容を提言したらよい。

(委員長) 前回の提言も参考にして、より市民にご理解をいただくために、提言のバージョン2を作る。

(委員) 先月、東京にいる大学教授とオンラインで繋ぎ、指導してもらう取組を行った。三次市の地域移行でも、活用できるのでは。

例えば、休日は合同練習し、平日は、オンラインで指導が受けられるのでは。

(委員) 県内外のモデルを学ぶために、専門家を呼んで研修会を開催したら良いのでは。イメージを持ってもらえと思う。

(委員長) それでは、早めに公表していくということで提言の一つとして良いか。

(委員) 提言は賛成だが、内容の具体を明確になっていないことが課題。必ず出てくる質問であろう。

(委員長) 時期を示さないと、意見を吸い上げることに繋がらない。この検討委員会で具体内容を詰める前に、開始時期を公表することとする。

(委員長) 次に、休日の移行だけに限定せず、平日の移行についても併せて検討することはどう思うか。

(委員) 少年少女合唱団は、平日（木曜日）に活動している。休日は休みたい子どももいる。

(委員) 休日にゆっくり過ごしたい子どもも多い。柔軟に対応した方が良い。

(委員) 自分の時代は休日部活動が当たり前だったが、最近のこどもは休日は自分の時間と考えて、好きなアニメの時間や、スポーツに従事する方が良い。

(委員) モデル地域でも平日をフォローしているため、提言では、休日を基本として、平日も一緒に考えるとするか、一気に休日も平日も地域実態に応じた全面移行とするか悩む。

(委員長) 最初から、休日平日を一気に移行は難しいだろう。

(副委員長) 休日に行ってまで、教職員が指導することは、最近の若い教員は難しい。まずは休日を原則として、できるところから平日も移行するのが現実的である。

(委員長) 部活動自体がどうなるかも見えない。学校から無くなることもあるかも。基本的には、休日を基本として、平日は実態に応じて行うことで良いか。子どもが主役となる、地域移行となることを望む。

(委員長) 三つ目として、庁内関係部局、市内関係団体等との連携

(委員) 国の方針に沿って、基本的な方針は示せるが、市民への周知には広報や SNS の利用、学校へはチラシの配付などを行う必要がある。

(副委員長) 地域性や規模によって、温度差がある。活動する場があれば、学校から手放すことができる。

(委員) 吹奏楽部の先生が集まる会に聞いたら、毎週きりに集められると各学校の練習ができないから困るという意見が多かった。

(委員) 吹奏楽部の顧問はコンクールのために土曜日の練習時間が必要である。

- (委員) 持続可能なシステムを構築していく必要がある。
- (委員) 顧問は意識を変えて、社会の流れについていかなければならない。
- (委員長) 関係団体との連携は苦労が多いだろうが、大切な点である。
情報共有をしながら組織的な推進・連携を図る。
- (副委員長) 高等学校との連携も有効的だと考える。
- (委員) 県北の高等学校吹奏楽部の人数は激減している。小中学校との連携は大切。
- (委員) 庄原格致高校や ICT 活用の話題も出たが、市外の可能性もあると思う。
例えば、東京の書道の講師に指導を受けることも考えられる。
提言にその可能性も鑑みた文言にするか。
- (委員長) 市ということに拘る必要はないことにしましょう。
- (教育長) 甲奴の野球の活動も上下や世羅、府中との交流もある。
こどもが達成感・充実感を感じることができれば良い。
- (委員長) 第2の提言の整理ができたと考える。
今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 資料5「三次市地域部活動検討委員会設置要綱」
今後は、あり方を検討する段階から、具体的な取組を推進する段階に入って来たと考える。
- (委員) 設置要綱を改正して部会を新たに書き込むことと、委員を増員する必要がある。
第3条に、「推進協議」体制を加える。
- (委員長) それでは、意見提言として、次の5つにまとめる。
- ・
 - ・
 - ・
 - ・
 - ・

3 その他

次回検討委員会は、令和7年2月予定

4 閉 会